

資料

妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と 保健指導の実際に関する文献検討

野沢ゆり乃¹, 米田昌代^{2 §}

概要

近年、歯周病と早産・低出生体重児出生との関連が注目されている。妊娠期の口腔内環境は生理的に歯周病を発症しやすい環境にあることから、妊婦の口腔内の清潔を保つことが重要である。本研究では妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際を文献より明らかにし、妊婦への保健指導や産科と歯科の連携方法について今後の在り方を検討することを目的とした。18件の文献を分析した結果、妊婦の約半数は口腔内の状態に関心がなく、定期的に歯科健診を受診している妊婦は約1~2割であった。保健指導を実施している産科スタッフは約3割であり、口腔ケアに関して自信のないスタッフは8割存在した。産科スタッフの約6~7割は歯科・口腔保健に関して情報を得る機会がなかった。これらのことより医療者の歯科衛生に対する認識を高めるとともに、妊婦に対し妊娠初期から、理想的には妊娠前から口腔衛生を意識付け、産科と歯科の連携によって妊婦のセルフケア行動を促す必要がある。

キーワード 妊婦, 口腔衛生, 助産師, 歯科, 連携

1. はじめに

近年、欧米を中心に歯周病と早産・低出生体重児出生との関連についての研究が注目を浴びている^{1,2)}。歯周病を放置することにより早産や低出生体重児出生などを引き起こす可能性があるという報告や、その可能性は無いという相反する報告が見られている³⁾。そのため、それらのはっきりとした関連性については明らかにはなっていない³⁾が、可能性は否定できない。これら歯周疾患と早産の関連性の可能性を知る妊婦は少なく⁴⁾、妊婦の知識不足等による歯周病の放置は早産を引き起こす要因ともなりうる^{5,6)}と考える。

妊婦が歯周病になりやすい原因として妊娠期の口腔内環境は生理的機能を逸脱しやすいことがあげられる。生理的機能を逸脱しやすい要因としては妊娠によるつわり症状や口腔内pH、ホルモンの影響が考えられている。つわり症状のために歯磨きが困難となり、加えて食事回数が増えること等により、口腔衛生状態を良好に保ちにくくなる^{5,6)}。さらに妊娠中は唾液のpHが下がることや、つわりで嘔吐すること等により、口の中が酸性に傾き、粘張度もあがり歯垢が付きやすくなる。加えて、妊娠中に分泌されるエストロゲンやプロゲステロンは歯周病原細菌の成長因子として作用

すると言われている。したがって、妊婦の口腔内の清潔を保つことは重要である。

現在、産科における妊婦健康診査受診費用は市町村で助成されているが、妊娠中の歯科健診については、全ての自治体においてサービスが受けられるわけではない⁷⁾。これらのことから、産科において口腔衛生に対する保健指導を充実させる必要があると考える。

そこで、妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際を文献より明らかにすることで、妊婦の口腔状態を良好に保つための保健指導や産科と歯科の連携方法について今後の在り方を検討することを目的とする。

2. 研究方法

データベースは医学中央雑誌とJ-Dream IIIを用いた。医学中央雑誌とJ-Dream IIIでは、「妊娠期」「口腔」「口腔衛生」「助産師」「妊婦」「歯周病」「歯科治療」「システム」「歯科」のキーワードを掛け合わせて、検索年代を指定せず原著論文を検索した。最終的に妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際について記述してある14件の文献に加えて、それらが引用や参考にした文献4件、計18件を対象とした(表1)。

¹ 金沢大学大学院 ² 石川県立看護大学 [§] 責任著者

表1 対象文献の概要

「妊婦の口腔衛生に対する意識・知識とセルフケアの実態」12件：文献番号 4,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18
 「医療者の妊婦の口腔衛生に対する意識と保健指導に対する意識」3件：文献番号 7,19,20
 「妊婦の口腔衛生に対する保健指導の実態」6件：文献番号 7,19,20,21,22,23

(文献番号)タイトル	著者(研究年) 研究目的	研究対象	研究方法	結果
(4) 徳島大学病院における妊婦の口腔保健向上に関する研究	十川 悠香ら(2009) 妊婦に対してより効果的な歯科保健指導ならびに歯科予防処置を実施するための資料を得ること	1. 産婦人科外来を受診した妊婦 520 名 2. 妊婦歯科検診を受診した妊婦 85 名	1. 両親学級, 妊婦歯科健診受講の有無を調査 2. 健康診査記録と口腔内診察結果の関連性を検討	<ul style="list-style-type: none"> 両親学級, 妊婦歯科検診のいずれも受診しなかった妊婦は 79.0% 妊娠してから歯科検診を受診した妊婦は 34.0% 歯科検診を受診していない妊婦は 53.0% 今後受診を予定している妊婦は 13.0% 受診を予定していない妊婦の 43.7%に口腔内の自覚症状あり これら 43.7%のうち, 73.7%は歯科検診を受診していない 「かかりつけ医がいない」妊婦は 65.9% 妊娠すると歯周病になりやすいことを知っている妊婦は 71.8% 口腔内に違和感や不快感がある妊婦は約半数 口腔内の健康状態について関心がある 53.1% 口腔内の健康状態に関する情報を知りたいと思っている 46.9% 妊娠中の歯周病が早産・低出生体重児の出生に関係があるに対する認知率は 22.9% 妊娠期の歯科受診率は 56.3%
(8) 乳幼児を持つ母親の妊娠期および育児期における口腔ケアに関する意識と行動の実態	都築 佑子ら(2010) 乳幼児を持つ母親の妊娠期と育児期の口腔ケアに関する意識や口腔ケアおよび、児への口腔ケアの実態を明らかにする	2 歳児までの乳幼児を持つ母親 96 名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 歯周病自覚症状では「歯と歯の間に食物が挟まる」が比較的高率
(9) 妊婦の歯周病と口腔内自覚症状・口腔ケアとの関連	久我原 朋子ら(2009) 妊娠初期と中期の歯周病罹患状況を明らかにし、歯周病合併妊婦の口腔内の自覚症状、口腔ケア、飲食習慣の特徴を分析し、妊婦の歯科保健指導に可能な情報を出すこと	妊婦健康診査受信者 203 名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 口腔内に何らかの自覚症状があった妊婦は 81.4% つわりのあった妊婦のうち、非妊時と同じように口腔ケアができたのは 46.7% 歯科健診を受けた妊婦は 50.0%、受診回数は 1 回(84.6%)が最多 定期的な歯科健診を受けている人は 5.4%であった
(10) A 施設における妊婦の口腔ケアの実態調査	渡邊 竹美ら(2007) 妊婦健診を受けている妊婦の口腔ケアの現状や口腔内の健康状態を明らかにし、妊娠中の効果的な口腔ケアについて検討する	妊娠 22 週以降の妊婦 59 名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 口腔内に自覚症状が全くなかった妊婦は 13.0% つわりがあった者は 44 名、その内つわりの時期の口腔ケアは「いつもと同じようにできた」43.2%、「歯磨き時間が短縮」36.4%、「歯磨き回数の減少」22.7%、「うがいをよくした」20.5% 「妊娠して磨けない時がありましたか」に対して「いいえ」と回答したものは 67.2%
(11) 妊婦の口腔ケアと口腔内自覚症状の実態調査	荒川 きよみら(2007) 妊婦の口腔ケアの現状と口腔内の自覚症状を明らかにする	妊娠 22 週以降の妊婦 54 名	質問紙調査	
(12) 妊婦に対する歯科保健教育の効果について	元地 茂樹ら(1998) 妊産婦歯科保健活動をより効果的に展開する	妊産婦歯科健診に参加した初妊婦 384 名	質問紙調査 口腔環境評価	

(文献番号)タイトル	著者(研究年)研究目的	研究対象	研究方法	結果
(13) 妊産婦における歯科に関連した知識の普及状況	福田 英樹ら(2006) 「う蝕原生菌の母子伝播」および「歯周疾患と早産」を取り上げ、妊産婦におけるこれらの歯科的知識の普及状況を明らかにする	初妊婦 65名, 10か月児歯科育児相談を受診した母親 140名 (1.と同期中に調査実施) 妊婦 16~24週の妊婦 752名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 歯周疾患と早産についての知識を有している者は全体の9.2% 歯周疾患と早産について知っている者の割合は、妊娠中に口腔関連の自覚症状があった者が46.9%, なかった者が19.8%. 自覚症状があった者の方が知っている割合が有意に高い(P<0.01) 「妊娠中の歯周病が早産・低出生体重児の出生に関係がある」に対する認知率は31.4%.
(14) 妊婦の口腔、喫煙、受動喫煙の状況とその意識に関する研究	佐藤 恵子ら(2011) 口腔疾患や喫煙状況と出産、家庭内の受動喫煙、喫煙の有害性の認知項目数、胎児への影響およびKTSNDについて再検討を行う	産後、健診を受診した母親 110名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> つわりで歯磨きがつかかった妊婦は30.0% かかりつけ医がいない母親は81.8%
(15) 産科併設歯科で行う「出産後歯科健診(ママ・サポート歯科健診)」について、アンケートからの報告	藤岡 万里ら(2009) 口腔衛生指導や必要である歯科健診を受け、母親の口腔環境が健全になることが期待される	妊娠3カ月から10カ月の妊婦 145名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 出産までに、歯科医で口や歯の検診や治療を受けるつもりのある妊婦は55%, 受けるつもりのない妊婦は45%
(16) 母親学級に参加した妊婦の歯科衛生に関する意識調査	宇佐美 妙ら(1985) 妊婦の生活環境や歯科に関する知識及び生まれてくる子どもへの予防に対する意識や関心度を把握する	歯科医院にて妊婦歯科健診ならびに口腔保健指導を受けた妊婦 739名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に歯科医院を受診している者は18.4%
(17) 徳島県における妊婦歯科健診受診者の口腔保健の現状および低体重児出産との関連性	横山 正明ら(2009) 妊婦の口腔保健の現状と歯周状態との関連性について検討を行う	妊娠初期から中期の妊婦を対象とした前期マザークラスを受講した 129名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 何かの時に相談できる歯科のない妊婦は41.9%
(18) 妊婦の口腔健康に対する意識調査(第2報) 妊娠初期から中期でのアンケートからの報告	丘 久恵ら(2012) 自分自身や生まれつきの子どもの口腔の健康に対してどのような認識を持っているかについて	妊婦に対して保健指導を実施している各施設担当者の代表 69名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 歯科医療従事者との連携の必要性について「そう思う」41.3%, 「少しそう思う」30.2% 歯科・口腔に関する保健指導の必要性について、平均値が高かったものは「歯や歯肉などへの急な痛みへの対応」, 「妊娠中の歯科治療」, 最も低かったのは「歯周疾患と早産, 低体重児出産との関係」 3.95 保健指導の内容「歯周疾患と早産, 低体重児出産との関係」について、保健指導「実施群」の方が必要性に対する平均値が有意に高い 歯科・口腔に関する保健指導を実施しているのは27.0% 歯科・口腔保健に関して情報を得る機会について「ない」が約70% 担当者は助産師 88.2%, 歯科医師 17.6%, 歯科衛生士 5.9% 内容は「母子手帳の歯科検診欄の活用」70.6%, 「歯科健診受診」70.6%, 「妊娠中の歯科治療」64.7%, 「妊娠中の口腔ケア」64.7%, 「歯周疾患と早産, 低体重児出産との関係」35.3%(複数回答)
(7) 医療現場における妊婦に対する歯科・口腔に関する保健指導についての実態調査	山本 智美(2010) 妊婦の保健指導に携わっている助産師, 看護師等と歯科医療従事者との連携するための課題を考察する		質問紙調査	

(文献番号)タイトル	著者(研究年) 研究目的	研究対象	研究方法	結果
(19) 産科病棟看護スタッフの妊婦の口腔ケアに関する意識調査 歯科衛生士による研修会前後での比較	田村 美和ら(2012) 産科病棟に勤務している看護スタッフの妊婦の口腔ケアに関する意識および知識レベルを明らかにし、歯科衛生士による妊婦の口腔ケアに関する研修会に参加することによって、産科病棟看護スタッフの意識や知識に変化があるか否かを客観的に評価する	産科病棟勤務の看護師57名 助産師47名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦に対する看護において、口腔ケアの重要性を「少し意識している」63.0%、「意識している」21.0%、「とても意識している」5.0% 過去1年間に妊婦の口腔ケアの実施や指導に関わる機会が「全くなかった」62.5%、「1回ぐらいあった」21.4%、「時々あった」1.7% 口腔ケア指導の自信について、全く自信がない82.4%
(20) 妊娠中の母親の現状と乳幼児期の子どもの特徴 職種の協働 歯科医療従事者と助産師の連携を考える 妊婦をケアする助産師の口腔ケアに対する意識調査から	片桐 めぐみ(2013) 助産師の保健指導の実態を知ることや歯科医療従事者の介入の必要性を明らかにする	病院・施設勤務の助産師47名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者と歯科医療従事者との連携を必要とした者は63.0% 歯科医療従事者から妊婦へ歯や口腔に関する情報提供が必要であった者は59.6%、まあ必要は36.2% 妊婦に対する歯科保健指導について「必要」36.2%、「まあ必要」44.7%、「どちらでもない」12.8%、「あまり必要ない」6.0%(歯科保健指導実施群では80.0%の者が必要とし、非実施群の18.2%と比較して歯科保健指導を必要と感じるものに有意に多い(P<0.01) 歯科保健指導を実施している14名のうち、その内容は「妊娠中の口腔ケア」61.5%、「齲蝕を引き起こす細菌の母子感染」53.8%、「母子手帳の歯科検診欄の活用」「妊娠中の歯科治療」「授乳と齲蝕」がそれぞれの46.2%で上位を占めており、「歯周病と早産、低体重児出産との関係」7.7%(複数回答)
(21) 妊産婦教室における口腔保健指導に関する実態調査	江田 節子(2007) 妊産婦教室における歯科保健指導の実態を調査し、問題点や今後の課題について検討を加える	病院・助産所・市町村センター89ヶ所のうち産科病棟頭長・担当助産師・歯科衛生士等の担当者	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 常勤の歯科衛生士がいるところは26% 歯科・口腔ケアプログラムを実施している所は66.3%
(22) Mother's Classにおける歯科口腔外科の取り組みについて	寺島 正美ら(2005) mother's Classのチームに加わり、当科的見地から妊婦に対する健康保持増進の一助として、口腔衛生の啓蒙活動を行ってきた中で、その実際の取り組みについて報告する	mother's classを受講した妊婦18~22週の10~30代の妊婦	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> Mother's Classを受講した妊婦18~22週の10~30代の妊婦を対象に、歯科衛生士が毎月1回約30分の講演を実施 講演内容「妊娠の口腔環境への影響」「口腔環境が胎児に与える影響」「齲蝕発症に関与する因子と予防法」「歯周病の発症に関与する因子と予防法」「その他、妊娠中に起こりやすい口腔内疾患について、妊娠時における口腔衛生の重要性」
(23) Mother's class「歯の衛生」についてのアンケート調査を比較、検討して	山本 ゆかりら(2009) テキスト改正後の受講者の理解度と講義内容の妥当性について比較、検討を行う	mother's class 第二講を受講した298名	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> Mother's Classを受講した妊婦を対象に「歯の衛生」と題し、歯科衛生士がテキストを用いて講義を行っている う蝕や歯周病のメカニズムについて、90%以上が「よくわかった」「まあまあわかった」と回答

3. 結果

3.1 対象文献の年次推移と研究者

対象文献の年次推移は2005年以降文献数が増加し、2005～2009年の過去5年に文献数が10件と最も多くなっている。

対象文献の研究者のうち、歯科医が最も多く8人であり、その次に歯科衛生士が5人、次いで看護大学教員が2人、看護師が2人、最も少ないのは産科医の1人であった。

3.2 対象文献の調査方法と調査対象

対象文献18件の調査方法は、質問紙調査によるものが17件、妊娠期間中の口腔状態を直接調査したものが1件に分類された。調査対象は、妊婦13件、産後の母親3件、助産師4件、看護師1件、産科病棟師長1件、歯科衛生士1件であった(重複あり)。

3.3 文献内容

文献の内容は「妊婦の口腔衛生に対する意識・知識とセルフケアの実態」12件、「医療者の妊婦の口腔衛生に対する意識と保健指導に対する意識」3件、「妊婦の口腔衛生に対する保健指導の実態」6件の3つに分類された(重複あり)。

(1) 妊婦の口腔衛生に対する意識・知識とセルフケアの実態

① 妊婦の口腔内の状態に対する自覚

都築ら⁸⁾は2歳児までの乳幼児を持つ母親96名を対象に質問紙調査を行った。その結果、妊娠期には約半数の母親が口腔内に違和感や不快感があると回答していた。また、久我原ら⁹⁾渡邊ら¹⁰⁾荒川ら¹¹⁾元地ら¹²⁾によると妊婦のうち、8割以上は歯磨き時の出血、食べ物の挟まりやすさ、歯茎の腫れ等の自覚症状を有していた。

② 妊婦の口腔内の健康に対する意識

都築ら⁸⁾は、妊娠期の口腔内の清潔行動および健康状態に関する意識について質問紙調査を行った。その結果、母親96名中「口腔内の健康状態について関心がある」53.1%、「口腔内の健康状態に関する情報を知りたいと思っている」46.9%であった。

③ 妊婦の妊娠中の口腔衛生に対する知識

a. 妊娠と歯周病の関連に関する知識

十川ら⁴⁾は妊婦歯科検診を受診した85名を対象に質問紙による聞き取り調査を行った。その結果、妊娠すると歯周病になりやすいことを知って

いる妊婦は71.8%であった。

b. 歯周病と早産・低出生体重児に関する知識

福田ら¹³⁾は妊娠届を行った初妊婦65名を対象に質問紙調査を行った。その結果、歯周疾患と早産についての知識を有している者は全体の9.2%であった。さらに福田ら¹³⁾は、10ヶ月児歯科育児相談を受診した母親140名を対象に妊娠中の口腔に関連する自覚症状の有無と知識の関係について質問紙調査を実施した。その結果、歯周疾患と早産について知っている者の割合は、妊娠中に口腔関連の自覚症状があった者が46.9%、なかった者が19.8%であり、自覚症状があった者の方が知っている割合が有意に高いという結果であった($P<0.01$)。

佐藤ら¹⁴⁾は妊娠16～24週の安産教室に参加した妊婦752名を対象に質問紙調査を行った。その結果「妊娠中の歯周病が早産・低出生体重児の出生に関係がある」に対する認知率は31.4%であった。また、都築ら⁸⁾によると、認知率は母親96名中22.9%であった。

④ 妊婦のセルフケアの実態

a. つわりと口腔ケアの関連

荒川ら¹¹⁾は妊婦健診を受けている妊娠22週以降の妊婦54名を対象に質問紙調査を行った。その結果、つわりがあった者は44名であり、その内つわりの時期の口腔ケアは「いつもと同じようにできた」43.2%、「歯磨き時間が短縮」36.4%、「歯磨き回数の減少」22.7%、「うがいをよくした」20.5%であった。また、渡邊ら¹⁰⁾によると、つわりのあった45名のつわり時期の口腔ケアの状況をみると「非妊時と同じように口腔ケアができた」46.7%であり、藤岡ら¹⁵⁾によると、母親108名中「つわりで歯磨きがつかった」30.0%であった。

b. 妊婦歯科健診の受診

十川ら⁴⁾は産科婦人科外来の妊婦520名を対象に妊婦歯科健診受診の有無を調査した。その結果、受診した妊婦は10.6%であった。さらに両親学級「歯の衛生」を受講した妊婦100名に対し、妊娠してから歯科健診を受診したかどうか、口腔内に自覚症状があるかどうか質問紙調査を行った。その結果「妊娠してからすでに歯科検診を受診した」34.0%、「受診していない」53.0%、「今後受診を予定している」13.0%であった。また、「今後受診を予定している」と回答した13名を除く87名のうち、「口腔内に自覚症状がある」43.7%であった。さらに、これら43.7%のうち、73.7%

は歯科検診を受診していなかった。

宇佐美ら¹⁶⁾は母親学級に参加した妊娠3カ月から10カ月の妊婦145名に対し、質問紙調査を行った。その結果「出産までに、歯科医で口や歯の検診や治療を受けるつもりがある」55.0%、「つもりはない」45.0%であった。

都築ら⁸⁾によると、母親96名中「妊娠期の歯科受診」は56.3%が受診をしていた。渡邊ら¹⁰⁾は、産褥入院中の産後の母親26名に対し質問紙調査を行った。その結果、妊娠中に歯科医で歯科健診を受けた人は50.0%で、その13名のうち受診回数は1回の84.6%が一番多かった。また、定期的に歯科健診を受けている人は5.4%であった。横山ら¹⁷⁾は歯科医院にて妊婦歯科健診ならびに口腔保健指導を受けた739名を対象に質問紙調査を行った。その結果、定期的に歯科医院を受診している者は18.4%であった。

⑤ かかりつけ医の有無

十川ら⁴⁾によると、妊婦85名中「現在、かかりつけの歯科医院はありますか」との質問に「ない」65.9%であった。また、藤岡ら¹⁶⁾によると母親108名中「ない」81.8%であった。さらに、丘ら¹⁸⁾は妊娠初期から中期の妊婦を対象とした、前期マザークラスを受講した妊婦129名を対象に質問紙調査を行った。その結果、何かの時に相談できる歯科「なし」41.9%であった。

(2) 医療者の妊婦の口腔衛生に対する意識と保健指導に対する意識

① 妊娠中の口腔ケアに対する意識

a. 妊娠中の口腔ケアの重要性に対する意識

田村ら¹⁹⁾は産科病棟勤務の看護師および助産師を対象に質問紙調査を行い、57名から回答を得た。その結果「妊婦に対する看護において、口腔ケアの重要性をどのくらい意識していますか」という質問に対し「少し意識している」63.0%、「意識している」21.0%、「とても意識している」5.0%であった。

b. 産科と歯科の連携の必要性に対する意識

山本⁷⁾は分娩を実施している施設で各医療機関の担当者の代表に対し質問紙調査を行い、そのうち63名を対象に分析を行った。その結果、歯科医療従事者との連携の必要性について「そう思う」41.3%、「少しそう思う」30.2%であった。

片桐²⁰⁾は助産所に勤務する助産師47名を対象に質問紙調査を行った。その結果、医療従事者と歯科医療従事者との連携を必要とした者は63.0%

であった。また、歯科医療従事者から妊婦へ歯や口腔に関する情報提供が必要であるとした者は59.6%、まあ必要は36.2%であった。

c. 歯科・口腔に関する保健指導の必要性

山本⁷⁾によると、施設代表者に対し歯科・口腔に関する保健指導の必要性について、5件法で問うた結果、全体として平均値が高かったものは「歯や歯肉などへの急な痛みへの対応」4.52、「妊娠中の歯科治療」4.46、「歯科健診受診」4.46等で、最も低かったのは「歯周疾患と早産、低体重児出産との関係」3.95であった。また、保健指導の内容のうち「歯周疾患と早産、低体重児出産との関係」について、歯科保健指導「実施群」の方が必要性に対する平均値が有意に高い結果であった。

片桐²⁰⁾らは助産師による妊婦に対する歯科保健指導について助産所助産師に問うた結果「必要」36.2%、「まあ必要」44.7%、「どちらでもない」12.8%、「あまり必要ない」6.0%であった。歯科保健指導実施群では80.0%の者が必要とし、非実施群の18.2%と比較して、歯科保健指導を必要と感じるものが有意に多かった ($p>0.01$)。

(3) 歯科・口腔に関する保健指導の実際

① 歯科・口腔に関する保健指導の実施状況

山本⁷⁾によると施設代表者である63名中、歯科・口腔に関する保健指導を実施しているのは27.0%で、片桐²⁰⁾によると、助産所助産師47名中29.8%であった。

江田²¹⁾は病院・助産所・市町村センター89ヶ所のうちの産科病棟棟長・担当助産師・歯科衛生士等の担当者を対象にアンケート調査を行った。その結果、常勤の歯科衛生士がいるところは26.0%で「歯科・口腔ケア」プログラムを実施している所は66.3%であった。田村ら¹⁹⁾の調査結果によると、産科病棟勤務の看護師および助産師56名中「過去1年間において、妊婦の口腔ケアの実施や指導に関わる機会がありましたか」という質問に対し「全くなかった」62.5%、「1回ぐらいあった」21.4%、「時々あった」1.7%であった。

② 歯科・口腔保健に関して情報を得る機会

山本⁷⁾によると、施設代表者63名中、歯科・口腔保健に関して情報を得る機会について「ない」約70%を占めており、片桐²⁰⁾によると、助産所助産師47名中「ある」59.6%、「ない」40.4%であった。また「ある」と回答した28名のうちの情報源は、歯科医師46.4%、セミナー39.3%、以下、雑誌やパンフレット、先輩助産師と続き、歯科衛

生士からの情報提供は最も少なかった。

③ 歯科・口腔に関する保健指導の担当者

山本⁷⁾によると歯科保健指導を実施している17施設中、保健指導担当者は助産師88.2%、歯科医師17.6%、歯科衛生士5.9%であった。

④ 口腔ケアの指導に対する自信

田村ら¹⁹⁾によると、口腔ケア指導に対する自信について「現在、妊婦に対する口腔ケアの指導にどのくらい自信がありますか」という質問に対し、産科病棟勤務の看護師および助産師57名中82.4%が「全く自信がない」と回答した。

⑤ 実施している歯科保健指導の内容

山本⁷⁾によると、歯科保健指導を実施している17施設のうち、その内容は「母子手帳の歯科検診欄の活用」70.6%、「歯科健診受診」70.6%、「妊娠中の歯科治療」64.7%、「妊娠中の口腔ケア」64.7%が上位を占めており、「歯周疾患と早産、低体重児出産との関係」35.3%であった(複数回答)。片桐ら²⁰⁾によると、14名のうち「妊娠中の口腔ケア」61.5%、「齲蝕を引き起こす細菌の母子感染」53.8%、「母子手帳の歯科検診欄の活用」「妊娠中の歯科治療」「授乳と齲蝕」がそれぞれ46.2%で上位を占めており、「歯周病と早産、低体重児出産との関係」7.7%であった(複数回答)。

⑥ Mother's Classにおける取り組みの実態

寺島ら²²⁾が勤務する病院ではMother's Classを受講した妊娠18～22週の10～30代の妊婦を対象に、歯科衛生士が毎月1回約30分の講演を行っている。講演内容は、1. 妊娠の口腔環境への影響、2. 口腔環境が胎児に与える影響、3. 齲蝕発症に関与する因子と予防法、4. 歯周病の発症に関与する因子と予防法、5. その他、妊娠中に起こりやすい口腔内疾患について、妊娠時における口腔衛生の重要性を強調している。

山本ら²³⁾が勤務する病院ではMother's Classを受講した妊婦を対象に「歯の衛生」と題し、歯科衛生士がテキストを用いて講義を行っている。このMother's Classを受講した妊婦295名を対象に質問紙調査を行った結果、う蝕や歯周病のメカニズムについて、90%以上が「よくわかった」「まあまあわかった」と回答した。

4. 考察

4.1 対象文献の年次推移と調査方法・対象について

対象文献の年次推移をみると過去10年間で文献数は増加しており、近年になり日本でも妊婦の

口腔衛生に関する研究が行われていることが分かる。しかし、検索でヒットした文献は妊婦が歯周病に罹患しやすいことを示す等、歯科治療等に関する研究が主であり、研究目的に沿うような文献は18件と少なかった。研究者は歯科に従事している医療者が多く、今後は看護師や助産師が研究者となり、産科における口腔ケアの介入方法や効果的な連携のシステムを開発し、その成果を解明、さらに改善策を検討していくような研究が必要だと考える。

調査方法は質問紙による調査がほとんどであった。しかし、産科スタッフの意識や考えについて明らかにするには質問紙だけでは限界がある。口腔衛生について産科スタッフが、妊婦に対してどのような介入が必要だと考え、実際の業務の中でどの範囲まで介入できると考えるか等を明らかにするために、インタビュー調査も取り入れるべきだと考える。

調査対象は産婦を対象にしたものもみられたが、その場合、妊娠期を振り返っているため記憶が曖昧な部分もある。そのため、妊娠期の妊婦を対象とした方がデータの信頼性は高いと考える。

4.2 文献内容について

(1) 妊婦の口腔衛生に対する意識と自覚症状

妊婦の約50～80%は口腔内に自覚症状を有し⁸⁻¹²⁾、つわりにより約半数の妊婦が歯磨きに支障をきたしていた¹¹⁾。また、約半数は口腔内の状態に関心がない⁸⁾という結果がみられたことから、妊婦に対し介入することが必要であると考えられる。自己管理のできている妊婦も含め、妊婦健診の際に医師・助産師等産科スタッフが早期歯科受診の啓蒙活動を行うべきだと考える。

歯科で歯科健診を受診した妊婦は約30～50%^{4,8,10)}であり、定期的に歯科健診を受診しているのは5.4～18.4%であった^{10,17)}。「歯周疾患と早産」について知っている者の割合は、妊娠中に口腔関連の自覚症状のある妊婦とそうでない妊婦で有意な差がみられた¹³⁾ことから、自覚症状のある妊婦の方が危機感を持ち、知識を得ようと行動した可能性がある。「自覚症状が出現したら受診すればいい」と考える妊婦や、口腔内に問題が生じてから行動を起こす妊婦も存在すると考えられる。さらに、かかりつけ歯科医のいない妊婦が65.9～81.8%存在する⁴⁾。これらのことから、歯科健診を受診する妊婦が少ない現状にあることが分かる。その理由として、もともと歯科を受診

する習慣がないことや受診の必要性を感じていない、妊娠初期は仕事があり、妊婦健診以外に受診のための時間が作れない等が考えられる。しかし、口腔内に問題が生じてから受診するのでは遅い。妊娠する以前からかかりつけ医を持ち、定期的に歯科を受診する習慣づけが必要である。また、歯科受診のための時間を作ることが出来るよう、職場の理解も必要になる。そのためには、社会全体で妊娠期の口腔衛生について関心を持つことが重要である。

さらに行政機関での取り組みとして、母子手帳交付の際に歯科健診受診券の配布を行い、妊娠初期から歯科健診への意識付けを行うべきである。妊娠前・妊娠初期に歯周病による胎児へのリスクを最小限に留めることが出来るような保健行動を促進していく必要があると考える。

(2) 産科での妊婦の口腔衛生における課題

分娩を実施している施設での保健指導の実施率は約30%^{7,20)}と少なかったが、江田²¹⁾によると「歯科・口腔ケア」プログラムを実施している所は66.3%と高い結果であった。江田の研究では対象に市町村が含まれているため、結果として高い実施率が出たと考え、実際に保健指導を行っている施設は少ないと判断する。保健指導の担当者は助産師の約90%⁷⁾が最も多い。そのため、妊娠初期から助産師がどのように関わっていくかが、その後の妊婦の口腔衛生に反映する。妊婦の口腔衛生に対する指導の必要性は約80%の助産師が感じている²⁰⁾が、妊婦の口腔ケアに関わる機会は少なく¹⁹⁾、指導を行っていない現状にある。産科に勤務する医療者助産師の知識不足や、そこから生じる指導に対する自信の無さが原因ではないかと考える。また、助産師・看護師教育の際に、妊婦の口腔衛生に対する保健指導について十分な教育を受けてこなかったため、個別的な指導方法がわからない産科スタッフがいるのではないかと考える。

さらに、妊娠中の口腔ケアに関しては約90%近くの産科スタッフが重要性を認識している¹⁹⁾。産科スタッフは重要性を感じているが、実際には指導を行っていない現状^{20, 21)}にあり、妊婦の口腔衛生に関しては歯科に任されているのではないかと考える。歯科に委託するだけでなく、産科も介入していくべきだと考える。

医師を除く産科スタッフの約60～70%は、歯科・口腔保健に関して情報を得る機会がな

く^{10,20)}、情報源もわずかである²⁰⁾。また、産科と歯科の連携の必要性を感じている産科スタッフは約70～90%も存在している²⁰⁾。このことから、歯科から産科への情報提供や口腔衛生の指導方法について相談できるよう、歯科が産科スタッフに対し定期的な勉強会を開催するなど、歯科のコンサルテーションが必要であると考え。さらに、歯科から産科に対するコンサルテーションだけでなく、足りない部分を補い連携していくような、互いにコンサルテーションしあう関わりが、正常な妊娠経過、胎児の健康につながるのではないかと考える。

口腔ケアに関する自信のない産科スタッフが80%も存在している¹⁹⁾ことから、助産師教育の段階から口腔衛生保持のための助産師の介入方法を教育すべきである。現在出版されている母性看護学・産科学関連の書籍を散見すると、妊娠中の口腔ケアに関する記述はわずかであり、妊娠中の口腔ケアに関する保健指導は、母子手帳の歯科検診欄の活用・歯科健診受診・妊娠中の歯科治療・妊娠中の口腔ケアなどに限られ、具体的な口腔ケアに関する指導内容については書かれていなかった²⁴⁻²⁶⁾。そのため、助産師教育課程において、どのような教育がなされているのか、担当教員が指導の必要性を感じているかは不明である。以上の点を明らかにし、教育内容を見直す必要があるかを検討する研究が必要であると考え。

妊婦のうち、妊娠すると歯周病になりやすいことは約70%の妊婦が知っている⁴⁾が、歯周病と早産・低出生体重児に関する知識を有している者は約10～30%^{8,13,14)}と低い。その理由として、保健指導のうち、歯周疾患と早産・低出生体重児出産との関係について指導している医療者は少なく^{7,20)}、妊婦にも知識が浸透していないのではないかと考える。まあ必要も含め、約80%の助産師は妊婦に対する歯科保健指導が必要²⁰⁾と考えているが、歯周病と早産・低出生体重児に関する保健指導の必要性を感じている医療者は少なく⁷⁾、Mother's Classにおける取り組みでも指導されていなかった^{22,23)}。産科スタッフが歯周病と早産・低出生体重児に関する十分な知識を有し、指導の必要性を理解することが必要である。そうすれば、指導の機会も増え、妊婦の知識を有する割合も増加すると考える。また、Mother's Classにおける取り組みに対し、内容の理解度を明らかにする研究²³⁾は行われているが、指導が効果的であったか、その後の妊婦の行動変容につながっ

たかを明らかにする研究は行われておらず、研究の必要性があると考え。

今後は、妊娠期以前から口腔衛生のための保健行動を習慣づけ、さらに妊娠中の口腔衛生保持のための産科・歯科の連携の充実や、妊婦が適切なセルフケア行動を取れるような指導が望まれる。

5. まとめ

妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際について文献検討を行った結果、以下のことが明らかになった。

妊婦の約半数は口腔内の状態に関心がなく、定期的に歯科健診を受診している妊婦は約1～2割であった。また、分娩を実施している施設で保健指導を実施している産科スタッフは約3割であり、口腔ケアに関して自信のない産科スタッフは約8割存在した。さらに産科スタッフの約4～7割は歯科・口腔保健に関して情報を得る機会がなく、情報源もわずかで、歯周病と早産・低出生体重児に関する保健指導の必要性を感じている医療者は少ない。

以上のことから、医療者の歯科衛生に対する認識を高めるとともに、妊娠期以前から口腔衛生のための保健行動を習慣づけ、妊娠初期から歯周病による胎児へのリスクを最小限に留めることが必要である。また、口腔衛生について全てを歯科に委託するのではなく、産科も介入する必要がある。そうすることにより、正常な妊娠経過、胎児の健康につながるのではないかと考える。

利益相反

なし

引用文献

- 1) Dortbudak O, Eberhardt R, Ulm M and Persson GR: Periodontitis, a marker of risk in pregnancy for preterm birth. *Journal of clinical periodontology*.32,45-52,2005.
- 2) Pitiphat W, Joshipura kJ, Gillman MW: Maternal periodontitis and adverse pregnancy outcomes. *Community dentistry and oral epidemiology*.36, 3-11,2008.
- 3) 久我原朋子, 大橋一友: 妊婦の歯周病と早産との関連についての文献検討, *川崎医療福祉学会誌*, 18 (1), 227-237,2008.
- 4) 十川悠香, 横山正明, 坂本治美他: 徳島大学病院における妊婦の口腔保健向上に関する研究, *日本歯*

- 科衛生学会雑誌, 4 (1), 50-57,2009.
- 5) 石川烈, 川嶋庸子: 【知っておきたい歯と口の健康】妊娠時の口腔変化, *助産婦雑誌*, 56 (11), 889-892,2002.
- 6) 渡邊竹美, 糠塚亜紀子, 倉内淳子: 妊婦の口腔内健康状態と *Prevotella intermedia* の妊娠への影響, *秋田大学医学部保健学科紀要*, 14 (2), 17-28,2006.
- 7) 山本智美: 医療現場における妊婦に対する歯科・口腔に関する保健指導についての実態調査, *日本歯科衛生学会雑誌*, 4 (2), 83-89,2010.
- 8) 都築佑子, 志村千鶴子: 乳幼児を持つ母親の妊娠期間および育児期の口腔ケアに関する意識と行動の実態, *日本ウーマンズヘルス学会誌*, 9 (1), 93-103,2010.
- 9) 久我原朋子, 安藤布紀子, 酒井ひろ子他: 妊婦の歯周病と口腔内自覚症状・口腔ケアとの関連, *母性衛生*, 50 (1), 94-101,2009.
- 10) 渡邊竹美, 糠塚亜紀子, 平元泉他: A 施設における妊婦の口腔ケアの実態調査, *秋田県母性衛生学会雑誌*, 21,13-17,2007.
- 11) 荒川きよみ, 渡邊竹美, 糠塚亜紀子他: 妊婦の口腔ケアと口腔内自覚症状の実態調査, *日本看護学会論文集 母性看護*, 37,131-133,2007.
- 12) 元地茂樹, 松本勝: 妊婦に対する歯科保健教育の効果について, *明海大学歯学雑誌*, 27 (2), 135-146,1998.
- 13) 福田英輝, 北野久枝, 志方朗子他: 妊産婦における歯科に関連した知識の普及状況, *口腔衛生学会雑誌*, 58 (5), 709-713,2006.
- 14) 佐藤恵子, 稲垣幸司, 長谷川純代他: 妊婦の口腔, 喫煙, 受動喫煙の状況とその意識に関する研究, *日本歯科衛生学会雑誌*, 6 (1), 43-53,2011.
- 15) 藤岡万里, 吉田美幸, 長友文他: 産科併設歯科で行う「出産後歯科健診(ママ・サポート歯科健診)」について, アンケートからの報告, *小児歯科学雑誌*, 47 (5), 738-745,2009.
- 16) 宇佐見妙, 岩本美恵子, 坂本治美: 母親学級に参加した妊婦の歯科衛生に関する意識調査, *日本歯科衛生士会学術雑誌*, 13 (1), 29-32,1985.
- 17) 横山正明, 米津隆仁, 横山正秋他: 徳島県における妊婦歯科健診受診者の口腔保健の現状および低体重児出産との関連性, *口腔衛生学会雑誌*, 59 (3), 190-197,2009.
- 18) 丘久恵, 古河真理子, 島野侑子他: 妊婦の口腔健康に対する意識調査(第2報) 妊娠初期から中期でのアンケートからの報告, *日本歯科東洋医学会誌*, 31 (1-2), 12-16,2012.

- 19) 田村美和, 澤里千亜紀, 湧井齊子他:産科病棟看護スタッフの妊婦の口腔ケアに関する意識調査 歯科衛生士による研修会前後での比較, 栃木県母性衛生学会雑誌, とちぼ (38), 28-32,2012.
- 20) 片桐めぐみ:妊娠中の母親の現状と乳幼児期の子どもの特徴 職種間の協働 歯科医療従事者と助産師の連携を考える 妊婦をケアする助産師の口腔ケアに対する意識調査から, 小児歯科臨床, 18 (7), 94-97,2013.
- 21) 江田節子:妊産婦教室における口腔保健指導に関する実態調査, 本歯科衛生学会雑誌, 2 (1), 216-217,2007.
- 22) 寺島正美, 中村初江, 山本ゆかり他:Mother's Class における歯科口腔外科の取り組みについて, 函館中央病院医誌, 8-9,55-58,2005.
- 23) 山本ゆかり, 中村初江, 吉田香織他:Mother's class 「歯の衛生」 についてのアンケート調査を比較, 検討して, 函館中央病院医誌, 11,57-58,2009.
- 24) 森恵美:系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②第12版, 医学書院, 2012.
- 25) 福井トシ子編:助産師業務要覧 第2版, 日本看護協会出版会, 2012.
- 26) 我部山キヨ子, 大石時子編:助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 医学書院, 2008.

A Literature Review on Attitudes of Pregnant Women and Healthcare Workers towards Oral Hygiene and the Current Status of Health Guidance

Yurino NOZAWA, Masayo YONEDA

Abstract

The association between periodontal disease and preterm delivery of low-birth-weight infants has recently been gaining attention. Because pregnancy causes physiological changes to women's oral environment and increases susceptibility to periodontal disease, it is important for pregnant women to maintain favorable oral health. This study investigated the attitudes of pregnant women and healthcare workers towards oral hygiene and the current status of health guidance by reviewing the literature, and examined ideal ways to provide pregnant women with health guidance and encourage cooperation between the disciplines of obstetrics and dentistry. The results of analysis of 18 articles showed that approximately half of pregnant women were not interested in their oral health, and those who receive regular dental care accounted for only approximately 10-20%. Health guidance was performed by approximately 30% of obstetric care providers, and 80% of them did not have the confidence to provide oral care. Also, approximately 60-70% of obstetric care providers did not have the opportunity to receive information on oral health care. The above results suggest the need to increase the dental hygiene awareness of healthcare providers, help pregnant women develop positive attitudes towards oral health care from the early stages of pregnancy, ideally even before conception, and improve self-care behaviors of pregnant women by promoting cooperation between the disciplines of obstetrics and dentistry.